

コロナ禍における短期大学での国内研修の実践例について Practical Example of Junior College Domestic Training during the Coronavirus Pandemic.

国際学院埼玉短期大学教育研究所 大野琴絵
国際学院埼玉短期大学健康栄養学科 馬場和久
国際学院埼玉短期大学健康栄養学科 大 雅世
国際学院埼玉短期大学幼児保育学科 越智光輝

令和2年1月に国内で初めての感染者が確認された新型コロナウイルスはその後感染の増減が繰り返され、未だに収束の気配を見せず、多くの教育活動に様々な影響を及ぼしている。このような状況下において、国際学院埼玉短期大学が長年開講してきた教養科目としての「海外研修」を国内での「現地研修」に変更して実践したことを令和4年度の事例として報告するものである。なお、その成果については、別稿で紹介する。

キーワード：海外研修、国内研修、コロナ禍、SDGs

1. はじめに

国際化が進展する中において、高等教育機関におけるグローバル人材の育成が強く求められている。文部科学省が紹介している「グローバル人材育成推進会議中間まとめ（2011年6月22日）」の資料によると、「グローバル人材」についての概念を、「語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等」と定義している。

各大学においては、上記に示した人材を育成するためにカリキュラムを工夫し、様々な取り組みを行っているところである。特に、多くの大学で実施している海外研修や留学の制度は、まさに国際社会を生きる学生を育成するための有効な学修機会となっている。

本学における海外研修の歴史も古く、これまで毎年多くの学生が海外で生活を体験しながら、異国の人や多様な文化、歴史等に触れながら国際感覚や国際社会に貢献するための教養を身に付けてきた。

このような中、令和2年度、3年度と世界的規模での新型コロナウイルス感染拡大の影響により海外への渡航は中止せざるを得なくなったが、平成4年度は、依然として続くコロナ禍にあるものの、長年に亘り大きな実績を積み上げてきた本学の海外研修の意義を再確認しながら感染防止に最大の注意を払い、国内研修として本科目を開講した。

また、本学が平成30年12月に国連グローバル・コンパクト（UNGC）に署名し、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）に加盟していることを受け、講義や現地研修において、SDGsの視点に関連させながら本科目の学修を進めてきた。

2. 教養科目「海外研修」について

2-1 海外研修実績

(1) 本学の海外研修の歴史

本学における海外研修の歴史の概要は表1の通りである。

表1 本学の海外研修の歴史概要

年度	内容
昭和59年度	沖縄研修
昭和63年度	シンガポールでのホームステイとして海外研修をスタート
平成2年度	オーストラリア研修をスタート
平成13年度	カナダ研修をスタート
平成15年度	シドニー大学・マッコリー大学と教育提携調印
平成18年度	バンクーバーアイランド大学と姉妹校提携調印 オーストラリア、カナダでの研修やホームステイが本格的にスタート
令和元年度	台湾研修をスタート
令和2年度	新型コロナウイルス感染症の影響のため 海外研修中止 学内授業のみ
令和3年度	新型コロナウイルス感染症の影響のため 海外研修中止 学内授業のみ
令和4年度	海外研修中止 国内現地研修 横浜研修を実施

(2)海外研修を通じた学びの実績

別稿にて本授業の卒業生講話として講師を依頼する卒業生里見遥氏の事例を紹介する。里見遥氏は平成29年度(2017年度) 国際学院埼玉短期大学健康栄養学科調理製菓専攻卒業調理製菓専攻を卒業した。当時2年次の必修科目「海外研修」では、オーストラリア研修(8日間)、カナダ研修(15日間)、国内研修(3日間)の中から、15日間のカナダ研修を選択した。カナダ研修では、バンクーバーアイランド大学で語学研修を行い、ホームステイをしながら、アイスホッケー、カヌー、ロッククライミング、パン作り、Cathedral Grove探索、バーベキュー等のアクティビティの他、小学校訪問では日本の歌を披露したりと貴重な体験を積んだ。カナダの文化に触れながら、毎日英語のみの生活にも挑んだ。また、ブリティッシュコロンビア州の州都であるビクトリアやバンクーバーでのスタンレーパークも訪問して楽しんだ。



図1 平成29年度カナダ研修の様子

このカナダ研修で海外の文化や語学への興味が開花され、国際学院高等学校で行われているユネスコ活動の一環である、マレーシアのホームステイ受入事業などにも積極的に参加し、マレーシアの高校生と着物を着つけての川越観光や、高等学校に設置している石川県輪島市の庄屋屋敷を移築した敦照殿（日本文化研修館）で、日本料理等を振舞い、調理の腕を発揮した。



図2 マレーシア交流の様子（日本）



図3 敦照殿



図4 海外の友だちとの集合写真

その後、その際に交流があったマレーシアの王立「SEKOLAH SULTAN ALAM SHAH」を訪問し、学校寮に宿泊しながら、交流を深めた。そして、首都機能移転をした文化的な街Putrajayaを探索し、異文化に触れた。カナダ研修以降の国際交流は、全て自分たちが主体的に計画し実行に移した。特に、マレーシアの学校訪問においては、現地の教員と直接連絡を取り合い、旅行会社を通さずに自ら実施した極めて積極的な行動であった。



図5 マレーシアでの交流の様子（マレーシア）

卒業後、海上自衛隊の調理係として3年間勤務し、海上自衛隊を退職後、青年海外協力隊の料理隊員としてキルギス共和国へ入国した。現在はキルギス共和国で現地の職業訓練校で日本料理を教え、学生の料理審査を行っている。本学の海外研修をきっかけに国際交流に興味を抱き、現在の職に至る。本学の海外研修での大きな実績といえる。

2-2 令和4年度 授業概要

令和4年度の授業概要は表2の通りである。

表2 授業概要

1	授業方法	演習（選択科目）単位：1単位 開講年次：2年次前期
2	授業の概要	1年次の後期にて履修した、科目「日本文化と国際理解」での学修成果を生かし、異文化や日本文化について主体的・対話的に学び、理解をより深めていく。

		<p>また、広く国際社会の中で貢献し信頼される人となるために、現地研修等を通して表現力やコミュニケーション能力、礼儀やマナー等を身に付け、社会人としての資質・能力を高めるとともに、専門職としての自己を確立していく。</p>
3	到達目標	<p>「建学の精神」「教育方針」の具現化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外や国内における異文化と日本文化を理解し、その特徴をまとめて説明できる。 ・多様な人とのふれあいや学修を通して、SDGs との関連を図りながら実践的に学ぶ。 ・「One for all, all for one」の精神を身に付け、人間力を高める。
4	評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題への取組内容やノートのとまとめの状況の評価(70%) ・態度・姿勢(現地研修や聴講時の姿勢、ノート等の記述から学びに向かう力を評価)(30%) ・合計で 60%以上を合格とする。
5	テキスト	<p>大野誠「敦照の心」現代書林、1995</p> <p>参考図書等： 必要に応じて、授業時に資料等を配付する。</p>
6	授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で示された課題や準備学習に積極的に取り組む。 ・授業で学修した内容や考察したことについてノートにわかりやすくまとめる。 ・現地研修の準備や報告書の作成等に積極的に取り組む。
7	課題に対するフィードバック等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間提出となる「振り返りシート」を評価し、フィードバックしていく。 ・課題の取組状況やノート等の記録を評価し、フィードバックしていく。 ・授業内や現地研修における学びに向かう姿勢や態度、討論や発表等について評価していく。
8	学生による自己評価	<p>授業計画の概要・授業の目的や意義を理解し、自らの目標を設定して自己評価をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中での自己の在り方や役割を理解する。 ・海外や国内の様々な異文化等について、SDGs との関連を図りながら学ぶ。 ・現地研修を通して、現地事情や日本の文化 ・歴史について体験的に学ぶ。・現地研修の内容について協働してまとめ、発表する。・学修の過程を成果物としてのノートにまとめる。

2-3 令和4年度 授業計画

令和4年度の授業計画は表3の通りである。

表3 令和4年度授業計画

週	テーマ	学習内容
1	学長講話 「国際化の進展と日本人」	国際化の進展と其中で求められる資質・能力についての講話を聴講し、これからの国際社会の中での生き方について考える。
2	ユニセフ協会講話 「多文化共生社会」	日本人と外国人が協働して地域を支える「多文化共生社会」の実現について学ぶ。SDGs について学びを深める。
3	JICA講話「海外の子どもたちの教育や食の状況」	海外における子どもたちの教育の現状や食糧事情等についてJICA職員の講話から学ぶ。SDGsについての学びを深める。
4	現地研修準備	現地研修のための組織作り、行動目標の設定、行動計画の立案を行う。
5	現地研修「横浜研修」	計画に沿って現地研修を行う。現地研修計画に沿って仲間と協働し、日本や海外の文化・歴史について体験的に学ぶ。
6	現地研修「横浜研修」	計画に沿って現地研修を行う。現地研修計画に沿って仲間と協働し、日本や海外の文化・歴史について体験的に学ぶ。
7	現地研修のまとめ	実地研修で学んだことをグループごとに話し合いながらまとめる。(発表用のスライドの作成。)
8	・現地研修のまとめ、発表 ・卒業生講話(オンラインによる)	・現地研修でのまとめの発表を通して、表現力やコミュニケーション能力を身に付ける。 ・青年海外協力隊の活動内容や、海外で活躍している卒業生の講話から、国際社会でのコミュニケーションのあり方や多様な考え方、価値観等を理解し、職業人として働くことの意義を学ぶ。

3. 令和4年度における授業の展開

3-1 学内における学び

(1)授業内容

令和4年度の学内における授業内容は表4の通りである。

表4 令和4年度学内における学び

	講話者・実施日	内容
1	本学学長 2022年9月26日(月)	本科目の履修者に向け、1回目の授業では「国際化の進展と日本人」をテーマとした学長講話を実施した。 講話の中心となる内容として、次の3点が挙げられる。第1に、ハイコンテキスト文化・ローコンテキスト文化の具体例による異文化理解について。第2に、教養の3要素としての「空間的展望(広い視野をもつこと)」、「時間的展望(将来への見通しをもつこと)」、「構造的理解(メカニズムを理解すること)」につ

		いて。第3に、リーダーシップ(leadership)とフォロワーシップ(followership)の重要性についてである。
2	国際協力機構(JICA)の講師 2022年10月24日(月)	国際協力機構(JICA)埼玉デスクの矢田部建佑氏による講話を実施した。 テーマは「海外の子どもたちの教育と食の状況」と題して、次の内容で授業をしていただいた。 ・JICAの役割と活動について・発展途上国における子どもたちの現状について(海外協力隊として渡航したニカラグアでの経験から) ・ワークショップ(買い物ゲーム)等 ・SDGsが掲げる17の目標と関連させながら、特に飢餓に苦しんでいる発展途上国の実態について
3	埼玉県ユニセフ協会の講師 2022年12月5日(月)	埼玉県ユニセフ協会運営ボランティアの安藤由美氏による講話を実施した。 「地球のことを考え、自分にできる身近なことから行動しよう!」のタイトルの下、講師のインドでの体験とSDGsの17の目標とを関連づけた内容により、学生は、「世界のことを考えながら自分の足もとから、どのような行動をとるか」について考えた。

(2)現地研修のための事前踏査

2022年6月4日(土)本学教員4名が横浜研修の事前踏査を行った。現地踏査の内容は表5の通りである。

表5 現地研修のための事前踏査

時刻	行動内容
10:30	第一点呼地点として計画した「横浜スタジアム芝生広場」を「関内駅南口」に変更
11:00	「加賀町警察署」への挨拶(6/29(水)の現地研修についての情報提供)
11:10~12:10	中華街を下見し、潜在危険箇所や観光客の混み具合などを確認
12:15	第二点呼地点として計画していた「中華街横浜始媽祖廟」を確認し、点呼地点を「横浜始媽祖廟横山下町公園」に変更
12:30~13:00	「横浜外国人墓地」、「山手資料館」、「岩崎ミュージアム」の場所確認
~13:30	「ブリキのおもちゃ博物館」の確認
~14:20	「港の見える丘公園」の確認
~14:50	今後の授業内容等の打ち合わせ
15:00	第三点呼地点 「山下公園」、「氷川丸」付近の確認
~15:30	「日本郵船氷川丸」の下見
~16:00	「山下公園内」のトイレの場所等の確認
16:00	解散

今回の事前踏査の結果、特に以下の点について確認することが出来た。

- ・中華街は店数が多いため、研修前に昼食場所を決めておくと良い。
- また、歩き食べがないように、事前の指導を徹底しておく必要がある。

- ・「ブリキのおもちゃ博物館」では、約3,000点のブリキのおもちゃが展示されている。また、展示物に関連したクイズに挑戦でき、景品（絵はがき）がある。
- ・現地での班別行動では移動距離が長く、また坂道や階段も多いため、履きなれた運動靴等が望ましい。歩道が狭いため、注意が必要である。
- ・「氷川丸」内の見学所要時間は30分～40分である。

また、点呼場所については、移動距離や所要時間を勘案した結果、2つの地点をよりわかりやすい場所へ変更することとした。

(3)班編成

委員長・副委員長1名ずつを選出したのち、班分けを行った。

班分けは以下の通りである。

1班：幼児保育学科3名・健康栄養学科調理製菓専攻3名計6名

2班：健康栄養学科食物栄養専攻5名

3班：健康栄養学科食物栄養専攻5名

いずれも男女混合で編成し、各班に班長・副班長を置いた。

(4)研修のしおりの作成

研修のしおりには、建学の精神、目次、全体の目的、組織図、名簿、研修行程、班別行動計画、集合場所、横浜見学地①～④、MEMO欄、行動目標達成、振り返り、持ち物・諸注意・緊急連絡先を記載した。

<p style="text-align: center;"><持ち物></p> <table border="1"> <tr><td>研修計</td></tr> <tr><td>学生証</td></tr> <tr><td>胸章証 (出来れば印本)</td></tr> <tr><td>常備薬</td></tr> <tr><td>現金</td></tr> <tr><td>しおり</td></tr> <tr><td>筆記用具</td></tr> <tr><td>ビニール袋 (ゴミ入れ)</td></tr> <tr><td>ウエットティッシュ</td></tr> </table> <p style="text-align: center;"><諸注意></p> <ul style="list-style-type: none"> ●報告・連絡・相談・確認を徹底する ●研修行程に気を配る ●自分勝手な行動はせず、班級行動は避ける (班長は班員の行動を把握すること) ●研修生名簿、アポイントカードを厳格に ●貴重品の管理はしっかりと ●班員のマナーをしっかり守る <p>緊急連絡先 (連絡・欠席の際)：国際学院埼玉短期大学 事務局 048-641-7498</p> <p>班別行動中の緊急連絡先： ☐</p> <p style="text-align: center;">2022年度 海外研修 現地研修 2022年6月29日(水)</p> <p style="text-align: center;">横浜</p>  <p style="text-align: center;">国際学院埼玉短期大学 KOKUSAI GAKUIN SAITAMA COLLEGE</p> <p style="text-align: center;">班長・副班長 () 班 氏名 ()</p>	研修計	学生証	胸章証 (出来れば印本)	常備薬	現金	しおり	筆記用具	ビニール袋 (ゴミ入れ)	ウエットティッシュ	<p style="text-align: center;">建学の精神 Spirits of Foundation</p> <p style="text-align: center;">目次</p> <p>全体の目的・・・・・・・・P1～2</p> <p>組織図・・・・・・・・P3</p> <p>名簿・・・・・・・・P4</p> <p>研修行程・・・・・・・・P5</p> <p>班別行動計画・・・・・・・・P6</p> <p>集合場所・・・・・・・・P7～8</p> <p>横浜見学地①・・・・・・・・P9～10</p> <p>横浜見学地②・・・・・・・・P11～12</p> <p>横浜見学地③・・・・・・・・P13～14</p> <p>横浜見学地④・・・・・・・・P15～16</p> <p>MEMO・・・・・・・・P17～18</p> <p>行動目標達成、振り返り・P19～20</p> <p>持ち物・諸注意・緊急連絡先・・・・表紙</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【談笑】 Continuous Belation いつも新しい心を持ち、正流で無律と異色を惹く</p> <p style="text-align: center;">【研鑽】 Self-Development 生活の目標や学習目標をつくり、真摯に学ぶ事怠らない</p> <p style="text-align: center;">【慈愛】 Benevolence of Service 他者の心、他人を思う心を持って、人間関係の尊厳の精神を養う</p> <p style="text-align: center;">【信頼】 Trustworthy Reliability 人から信頼される喜びを大切に、わがまを押し退けままでやり遂す</p> <p style="text-align: center;">【和睦】 Peaceful Harmony お互いに関わり合い、協同して共通の目標達成に努める</p> </div>																																				
研修計																																														
学生証																																														
胸章証 (出来れば印本)																																														
常備薬																																														
現金																																														
しおり																																														
筆記用具																																														
ビニール袋 (ゴミ入れ)																																														
ウエットティッシュ																																														
<p style="text-align: center;">全体の目的</p> <p><一般目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修行程を充実したものにすために、建学の精神を理解し、教育方針を实践する。 ・班別行動 (班行動) を通し自己管理能力を養い、全ての基本となる人間性を養われる。 <p><行動目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①礼をつくすことができる。 ②報告を徹底することができる。 ③時間内 (19分前行動) を守ることができる。 ④報告・連絡・相談・確認ができる。 ⑤研修行程に有用な知識を得ることができる。 ⑥研修生名簿がわかる。 ⑦研修生管理ができる。 ⑧自分自身や他者の意識に自己反省することができる。 <p>班別研修：事前学習で学んだ研修計画に従って、班別研修を行うこと目標。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①時間内 (19分前行動) を守り、遅やかに集合することができる。 ②協調性をもって互いに注意し合って行動することができる。 ③一人ひとりが事前研修の目標に照り行動することができる。 ④報告・連絡・相談・確認を徹底に実行することができる。 ⑤班員の意識確認が確実にできる。 <p>1-班別研修Ⅰ：班別行動で学んだ内容を報告書にまとめる</p> <p><行動目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①時間内 (19分前行動) を守り、遅やかに集合することができる。 ②報告・連絡・相談・確認ができる。 ③一日の行動を振り返り、一人ひとりが反省を述べることができる。 <p>班別行動で学んだ事例を報告書として報告書にまとめることができる。</p> <p>1-班別研修Ⅱ：発表</p> <p>まとめた報告書を適切な場面に発表することができる</p> <p><行動目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①時間内 (19分前行動) を守り、遅やかに集合することができる。 ②発表の場面で発表することができる。 ③発表の場を盛り上げることができる。 ④研修の意義を深くすることができる。 ⑤協調性を養うことができる。 	<p style="text-align: center;">2022年6月29日(水)</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>研修内容</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全席に</td> <td>19分前行動</td> <td>自宅</td> </tr> <tr> <td>11:00</td> <td>現地集合・点呼①</td> <td>京浜東北線・横浜橋「関内駅」横口広場</td> </tr> <tr> <td></td> <td>班別研修開始</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>既定した計画に従って研修</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12:15～30</td> <td>点呼②</td> <td>横浜中華街(山下公園)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>班別研修再開</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>既定した計画に従って研修</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15:30</td> <td>点呼③現地解散</td> <td>山下公園 日本郵船氷川丸集合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>帰宅後、研修まとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <thead> <tr> <th colspan="3">班別行動 (班ごとに記入)</th> </tr> <tr> <th>時間</th> <th>研修内容</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	時間	研修内容	場所	全席に	19分前行動	自宅	11:00	現地集合・点呼①	京浜東北線・横浜橋「関内駅」横口広場		班別研修開始			既定した計画に従って研修		12:15～30	点呼②	横浜中華街(山下公園)		班別研修再開			既定した計画に従って研修		15:30	点呼③現地解散	山下公園 日本郵船氷川丸集合		帰宅後、研修まとめ		班別行動 (班ごとに記入)			時間	研修内容	場所									
時間	研修内容	場所																																												
全席に	19分前行動	自宅																																												
11:00	現地集合・点呼①	京浜東北線・横浜橋「関内駅」横口広場																																												
	班別研修開始																																													
	既定した計画に従って研修																																													
12:15～30	点呼②	横浜中華街(山下公園)																																												
	班別研修再開																																													
	既定した計画に従って研修																																													
15:30	点呼③現地解散	山下公園 日本郵船氷川丸集合																																												
	帰宅後、研修まとめ																																													
班別行動 (班ごとに記入)																																														
時間	研修内容	場所																																												

資料1 研修のしおり（一部抜粋）

(5)行動目標

班ごとに当日の行動目標を設定した。行動目標は研修のしおりに記載された全体の目的から3つ選択するように指導した。全体の目的は資料2の通りである。なお、行動目標は本学の教育方針である「礼をつくし、場を清め、時を守る」を踏まえて班ごとに設定した。

<p style="text-align: center;">全体の目的</p> <p><一般目標> ・研修旅行を充実したものにするために、建学の精神を理解し、教育方針を実践する。 ・集団行動（班行動）を通し自己管理能力を養い、全ての基本となる人間性を高める。</p> <p><行動目標> ①礼をつくすことができる。 ②場を清めることができる。 ③時間(10分前行動)を守ることができる。 ④報告・連絡・相談・確認ができる。 ⑤研修旅行に有用な知識を得ることができる。 ⑥場に応じた服装ができる。 ⑦健康管理ができる。 ⑧自分自身をみつめ態度に自己反省することができる。</p> <p style="text-align: center;">1</p>	<p>班別研修：事前学習で学んだ研修計画に従って、班別研修を行う</p> <p><目標> ①時間(10分前行動)を守り、速やかに集合することができる。 ②協調性をもって互いに注意し合って行動することができる。 ③一人ひとりが事前研修の目標に則り行動することができる。 ④報告・連絡・相談・確認を確実に実行することができる。 ⑤班員の意思疎通が確実にできる。</p> <p>クラス別研修Ⅰ：班別行動で学んだ内容を報告書にまとめる</p> <p><行動目標> ①時間(10分前行動)を守り、速やかに集合することができる。 ②場に応じた服装ができる。 ③報告・連絡・相談・確認をすることができる。 ④一日の行動を振り返り、一人ひとりが反省を述べる。 ⑤班行動で学んだ事例を報告書として模造紙にまとめることができる。</p> <p>クラス別研修Ⅱ：発表</p> <p>まとめた報告書を適切に発表することができる</p> <p><行動目標> ①時間(10分前行動)を守り、速やかに集合することができる。 ②場に応じた服装ができる。 ③発表内容を理解することができる。 ④仲間の意見を聞くことができる。 ⑤協調性を養うことができる。</p> <p style="text-align: center;">2</p>
---	---

資料2 「研修のしおり」全体の目的

各班が定めた行動目標は表6の通りである。

表6 班ごとの行動目標

1班	<ul style="list-style-type: none"> ・協調性をもって互いに注意し合って行動することができる。 ・報告・連絡・相談・確認を確実に実行することができる。 ・班員の意思疎通が確実にできる。
2班	<ul style="list-style-type: none"> ・礼をつくすことができる。 ・時間(10分前行動)を守ることができる。 ・報告・連絡・相談・確認を確実に実行することができる。
3班	<ul style="list-style-type: none"> ・礼をつくすことができる。 ・報告・連絡・相談・確認ができる。 ・健康管理ができる。

(6)班別行動計画

本学が指定した研修場所から各班には2か所以上を選択させ、行動計画を立案させた。指定した研修場所は日本新聞博物館・横浜開港資料館・山手資料館・ブリキのおもちゃ博物館・岩崎ミュージアム・港の見える丘公園・氷川丸である。いずれも海外と日本の歴史や文化を習得できる研修施設を提示した。

なお、第一点呼地点として、11:00に「関内駅南口」、第二点呼地点として12:15～12:30に「中華街の山下町公園」、最終点呼地点として、15:30に「氷川丸前」を指定した。当日は炎天下での行動が予測されたため、移動距離等を計算しながら、無理のない行動計画を立てるように指導し、それぞれの研修場所や点呼地点をMAPを使いながら、1つつ確認をした。

班ごとに行動計画を話し合い、研修のしおりに記入した。資料3は3班の行動計画である。

時間	研修内容	場所
10:50	関内駅集合 中華街散策	関内駅南口 中華街
12:15	点呼② 中華街散策	昼食済ませる。 (小籠包、胡麻団子 豚まん ハリネズミまん)
13:30	中華街出発	↓
13:50	山手資料館 到着 見学	山手資料館
14:20	山手資料館 出発	↓
14:40	氷川丸 到着 見学	氷川丸
15:30	点呼③ 解散	↓

資料3 3班行動計画

3-2 現地研修

2022年6月29日（水）現地研修（横浜研修）を実施した。研修内容は表7の通りである。

履修者：幼児保育学科3名・健康栄養学科13名 計16名、

当日出席者：15名、1名は当日、体調不良のため欠席

表7 現地研修実際の行動

時刻	行動内容
10:30	第1点呼地点 JR関内駅南口
10:45	2班全員集合し研修開始
10:50	3班全員集合し研修開始
11:07	1班研修開始（1班学生1名電車乗り間違えのため11:22に関内駅到着）
12:15~30	第2点呼地点 「横浜中華街(山下町公園)」 ※班ごとに点呼
12:15	3班 第2点呼地点 点呼
12:30	2班 第2点呼地点 点呼
12:43	1班 第2点呼地点 点呼
14:30	行程は順調に進んでいるか、体調不良者は出ていないか等を班ごとに確認、報告
15:30	第3点呼地点に全員集合 「山下公園」及び「日本郵船氷川丸前」
15:40	班長、副班長が研修の状況や感想を述べ、引率教員から研修についての総括を行い、解散宣言（学生解散） その後、反省とまとめ（教員）
16:00	解散

【学生の状況】

- ・集合時刻の30分以上早く、到着している学生がいた。
- ・電車に2度乗り間違え、集合時刻に間に合わない学生がいた。

- ・点呼地点の「山下公園」と「山下町公園」を間違えた班があった。
- ・昼食時、話に夢中になり、第2点呼時間に間に合わない班があった。

炎天下での研修となり、熱中症の心配もあったが、余裕をもった研修行程を組んだことで、体調不良者も出ずに、無事に研修を終えることが出来た。集合時刻や点呼時に間に合わない学生がいたことや集合場所を勘違いしていた等の問題はあったものの、最終点呼時には全員が時刻通りに集合することが出来た。日本や海外の文化についての学修を深めることはもちろん、学科やクラスを超えての絆も深まり、実りある研修となった。今回の反省を踏まえ、引き続き研修のまとめ方や発表方法について指導していくこととした。

【班ごとの感想】

1班：（班長）時間通りに回ることは出来なかったが、班員と楽しく研修することが出来てよかった。（副班長）遅刻や欠席などの学生もいた。暑い中での研修となったが、皆で楽しく充実した研修を行うことができたのでよかった。

2班：（班長）道に迷うなどのトラブルがあったが、体調不良者が出ることもなく、横浜研修を楽しめたのでよかった。（副班長）途中、「山下町公園」と「山下公園」を間違えるトラブルもあったが、そのことで班内での協調性は深まったと思う。

3班：（班長）計画していた行程通りに進めることが出来た。あらかじめ時間に余裕を持って計画立てていたため、適度に休憩時間も取ることが出来た。全体としてよくまとまった行動できていたと思う。（副班長）中華街では、昼食を兼ねて、食について多くを学ぶことができた。

4. おわりに

コロナ禍にあって、海外へは勿論、国内においても泊を伴う集団での研修を実施することの難しさが続いている。このような中、今回の科目開講に当たっては、日本ユニセフ協会や国際協力機構（JICA）の講師による海外の実情についての具体的な講話や、本学の卒業生による海外で生活について、オンラインでの講話を取り入れたことにより、映像を通して間接的に海外の文化や生活、子どもたちの生活の様子等について実感を伴いながら学ぶことができた。さらに、日帰りでの現地研修であったが、新型コロナウイルス感染に注意しながら少人数でグループを編成し、計画から実行、まとめや発表まで、主体的・協働的に学修したことで、海外や日本の文化や歴史についてだけでなく、表現力やコミュニケーション能力、礼儀やマナー等、社会人としての資質・能力を高めるよい機会ともなった。今後は授業成果としてまとめていくこととする。

著者の利益相反：開示すべき利益相反はない

参考文献

- ・大野誠（1995）「敦照の心」現代書林
- ・大野誠（2017）「Ever Advancing KOKUSAI AKUIN 創立 50 周年記念誌」埼玉新聞社
- ・「グローバル人材育成推進会議中間まとめ（2011年6月22日）」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/46/siryo/_icsFiles/afieldfile/2011/08/09/1309212_07_1.pdf（最終閲覧日2023年2月1日）

- ・横濱おもてなし家（最終閲覧日 2022 年 8 月 31 日）

<http://yokohama-jinrikisha.com/hamachizu/>

(執筆分担)

- ・ 2. 教養科目「海外研修」について、3. 令和4年度における授業の展開 3-1 学内における学び(2) 現地研修のための事前踏査～(6)班別行動計画、3-2 現地研修 執筆担当：大野琴絵
- ・ 1. はじめに、2-3 令和4年度 授業計画 JICA 講話「海外の子どもたちの教育や食の状況」 4. おわりに、参考文献 執筆担当：馬場和久
- ・ 3. 令和4年度における授業の展開 3-1 学内における学び (1)授業内容 執筆担当：大雅世
- ・ 3. 令和4年度における授業の展開 3-1 学内における学び (1)授業内容 1. 学長による講話、3.埼玉県ユニセフ協会の講師による講話 執筆担当：越智光輝